



野生鳥類減少と其理由

和田 干藏

凡そ世の物質的文明の進歩と共に野生鳥類の減退するは勢ひ免るべからざる現象なり、而して有益鳥類の減退が世界の産業上甚大なる影響を及ぼすことは茲に喋々するを要せずと雖も農林業並に漁業に對し多大の損害を與ふる害敵(天敵)を捕喰して除害の効を奏する鳥類、又は經濟上主要なる鳥類を適當なる方法の下に保護し之が増殖の途を講ずるは實に目下の急務なりと謂ふべし。

鳥類の減少は人口の増殖と反比例し遂年其の悲境に頻しつゝありて中には殆んど其の跡を絶ちたる種類も尠らざる、今之を外國に例を見るも同様にして數百年前來の跡らざる種類の滅亡を來したるが如し、即ち英人ウイタル・ロスチル・イルド氏の最近に於ける精細なる統計に據れば、先づ大凡五百年前より今を去る約十年位前迄の間に判然せるもののみ

Walter Rothchild

Milwaukee 東の北の湖の西の地

Cincinnati 湖の北の西の地

にても百四十種に達し、尙約七十種位の鳥は將に滅亡の悲に類しつゝありと云ふ、此の統計に據れば大凡二年間位に約一種位宛世界より消盡するの事實なるを知るべし、最近に於て派滅せし一例は昔時北亞米利加全部に大群をなして移行轉住せし『渡り鳩エクトピステス、マイグラトリア』にして濫獲の結果一千九百十三年^{四月廿日}絶滅に歸し現今にては一羽も生存せざる境遇となれり、此の派滅の狀況は實に慘憺たるものにして今ワールス(一八三三—一九一三)氏原著生物之世界(The world of life)より摘録して其の一斑を示さむとす。

此の鳩は米國鳥學者(十九世紀の初期)オーヂュボン及びウイルソン兩氏の記載に據るも殆んど信じ難き程蕃殖増多を示したるものなり、而して南方はメキシコより北方はハドソン灣の海濱に至る迄北米森林の全部に棲息し其の過去の歴史は其の蹟を絶ちたる今日に於ても之を讀むに興味多きものあり、前年米國の一雜誌(オーク)に次の如き記載あり。

移住鳩(渡り鳩)唯一番生残る

嘗つてはMilwaukee ^{Cincinnati} 及びシンシナテイ邊の鳩群に屬したる數羽の渡り鳩は過去數年間人工飼養の下に保育せられ

つつありしが予は之に特殊の興味を有せり、本誌千九百八年號第十八頁に予が前通信を掲けたる時には此の鳥生残り居る者猶七羽ありしも最早蕃殖の望みなかりき、爾來次第に死滅して今や僅々一番を残せるのみなれども之とて其の生命は數ヶ月を出でざるべく、然らざれば此の渡り鳩なる者は唯史上の過去鳥となり終るべし(市俄古ラスヴェン、デーリン氏の通信)

此の記事に關聯して一千八百十一年(文化八年)に於ける渡り鳩の生活狀態及び數量等を知るは又興味あるを以て、茲にアレキサンダー、ウイルソン氏著米國鳥類學中より左の一節を抜萃せむとす。

此の鳥の増殖は常に森林中にありて時としては廣大なる區域を占む、彼等が一區域に來りて止る時は其の光景實に驚くに堪へたり、地上には其の糞積りて數吋の層をなし凡べて若草及び灌木は之がために枯死し數多の鳥の重さに困り

て折れたる樹枝は地上に散亂し、剩へ數千町歩に亘れる森林は恰も一々斧鉞を加へられたるかの如くに枯死して其の廢滅の跡は數年を経るも容易に恢復せず、彼等の塹場が一旦發見せらるる時は遠近の住民は夜間を待ちて銃番、棍棒、長竿、硫黃、火鉢及び其の他凡ゆる攻撃の具を携へて攻め寄せ來り、數日を出でずして荷車に之を滿載して歸るなり。

此の鳥の産卵場は其の塹場と異なる點は其の區域の更に廣大なるにあり、ケンタッキー州、シエルビーウィルより程遠からざる處に五年前此の産卵場の發見せられたることありしが、森林中を南北に横ざりて數哩長さ四十餘哩に亘りて鳥巢を以つて充塞し、何れの樹の枝も巢を懸げあらざるはなく、一樹にして九十組以上の巢を有するもの稀ならず、親鳥が初めて此の地に來りたるは四月十日にして五月二十五日には彼等は仔鳥を伴れて他の方面に移住し(渡り)去れり、此の間其の幼鳥が漸く成長し將に巢立せむとするに先立ち附近地方の任民は荷車、手斧、寢具、厨房具を携へ全家を擧げ此所に來りて數日間露營を張れり、此の際鳥聲の喧騒は實に名狀すべからずして人々相談話するには互に耳元に勵聲大音を發せざるべからず、地上には折れ枝破れ卵及び幼雛等散亂して豚の餌食となり空中にはトビ、ワシ、タカ等夥しく翺翔して親鳥及び幼鳥を捕獲するあり、試に地上より林樹の頂を仰ぎ見れば地上二十尺以上の處は滿目唯是れ喧擾と混亂のみにして、羽打ちするあり飛ぶあり鳴くあり又相衝突するありて其の響殆んど雷の如く、其の間には人間は斧鉞を以て巢の最も多く懸れる樹幹を伐り倒すあり、斯くて時としては樹を伐れるがために一時に二百羽位の雛を捕獲することありと、是等は單に美肉と油脂の凝塊なりと謂ふべし。

ウイルソン氏(著者)は數旬後一圓右シエルビーヴィルの産卵場附近の林間を通過せる際、午前十時頃夥しき鳥群の頭上を飛び掠めたるを目撃せるを以て、良好なる展望を得むがために附近なるペンソン河岸邊に走り行き此處より眺めたるに、此の驚くべき鳥群は整然たる組織と大なる速度を以て層々累々相重なり羽翼相接して南東の方位に向飛し、

左右前後滿目唯鳥のみにして寸隙を餘さず、斯くて午后一時に至るも四時に至るも頭上を過ぐる鳥群は減少せざるのみか、却て多く益々増加するの狀況ありて午后六時を過ぐる後に至る迄繼續せり。

ウイルソン氏は更に進んで氏が斯く自ら實視せる鳥群中の實數を略算せるに此の群團の總延長は二百四十哩に達したるべく、其の中に包括せられたる鳥數は尠くとも二十億萬羽以上ならむと云へり、若し其の一羽が一日に要する餌食を假に一合半餘となすも此の尠大なる全群の消費する總量は一日三千四百萬石に達するなるべし、オーデュボン氏も亦其の後約二十年を経て右の地を通過したるがウイルソン氏の記事の大體に於て正確なるを證明せり、オーデュボン氏の報告は言辭簡潔にして質實毫も己の目撃したる事實及び他人より傳聞したる事項を誇張して世に傳へむとする傾向を認めずと雖も、ウオータートン氏は猶其の眞摯を疑ひ之を以て過大なる放言誇張にあらずんば即ち御伽話なりと評せり、之に反してアルフレッドニウトン教授は却てウイルソン氏及びオーデュボン氏を辯護せり、蓋し渡り鳩のニューヨーク州にて捕獲せられたるものも解剖したるに往々其の胃中に新鮮なる糞を喰ひ充せる事あるは、彼等が南カロリナ州若しくはジョルシア州にて糞を喰ひたる後多時を要せずして數百哩を飛行したるを知るべし、又渡り鳩は英國にて屢々捕獲せられたることあるがニウトン教授の意見に據れば彼等が人力を藉らずして大洋上を横斷したるなりと云ふ。

北亞米利加洲に於ては過多の猛禽類存在せるに拘らず彼の渡り鳩の如きは自然狀況の下によく蕃殖して饒多なりしと、一方飛翔力強大なりしを思はばダーウイン氏の所謂優勢種の最好適例中に算せざるべからず、又鳩科の鳥類に於ける特殊發展の最高頂に達せるものなりと謂はざるべからず、然るに十九世紀の人類が單に富に對する貪慾の爲めに全大陸を蕩盡して渡り鳩の如き壯大麗妙なる生物存續のために寸地も與へざりしは文明史上の一大汚點と言はざるべからず、以上は外國に於ける一例なれども翻て我國の鳥界を觀るに又近年各種類共通的に減少すると著しく、中には其の滅亡の災に罹れるもの或は將に滅亡の機に類しつつあるもの等もなしとせず、されば去年と今年とを比較し其の間に於ける差

異の發見は困難なれども、現今を以て僅々十年以前二十年以前とを比較する時は其の間に於ける差異の甚しきものなることを推知すべし、此の過去の變化を以て將來を推測せむに畧々十年以後二十年以後には如何なる現象を呈すべきかは今日より豫想することを得べし、日本産鳥類にして其の跡を絶ちたる鳥はカウノドリ(鶉)、トキ(朱鷺)、ヘラサギ、ノガン、ダイサギ等にして維新以前には多數に棲息したりしが聽て明治の御代に至り次第に殺戮せられ現今に於ては數個の標本物となり過去を物語りつつあるに過ぎず、次にハクガン、シラサギ等は其の數夥しく減少し將に全滅せむとすつつあり、ツルも以前に比し著しき種族の減少を來したる結果現今にては唯二個所に渡來するのみにて他は點々各地に迷ひ行くに過ぎず、即ち鹿兒嶋縣出水郡阿久根村、山口縣熊毛郡八代村の各禁獵區域に於て認め得るのみなりと云ふ、其の他シラコバトに於ても元白子一帯の地に多數棲息せるを見しが現今に至りては埼玉御獵場以外に見ること能はざるに至れりと云ふ、此の現象を一局地に就て案するも彼の候鳥の如き亦年と共に其の來往を見ざるに至りしもの尠らざるが如し、維新以前はいざ知らずとも、吾等幼少の時代には『カリカリ渡れ』云々の唱歌を謠ひつつカリガネの渡る狀況を観察したるものなるも、十數年を出でざる今日に於ては其の面影だに見ること不可能にして全く夢の如き現象となれり、茲に於て花彩列島の稱を以て世界に誇れる我國も唯單なる花園たるに止り鳥の沙漠たらんとしつつあり、是如何なる原因にて然るべきかを研究し次で之が保護策を講ぜざるべからず。

農耕種樹を助くる有益鳥類の中には次第に迫害せられて絶滅に類するもの尠らざることは前述の如し、而して此の迫害者は單に狩獵者のみに限らず諸種の複雑なる原因を含むが故に以下逐次之に就て説述せむとす。

鳥類減少
の原因

直接原因

(一)(二)(三)

鳥類の棲息地帯破壊せられたること。

狩獵者増加せること。

獵區擴張せること。

間接原因

(四)(五)

數物師の不良手段。

剝製業者及び博物標本屋の不良手段。

(一) 鳥類棲息地帯の破壊せられたること。

近時人口増殖の結果耕地擴張の必要を生じたるがため山林原野の開墾せらるるものと共に増加せり、其の結果として従來鳥類に對して無上の棲息地帯たりし處も遂に彼等の棲息に由なく同地に營巢蕃殖するものなきに至るべし、即ちゴ井サギの如きは林相（森林の状態）に變化を與へんか、毎夏來往せるものと雖も其の年は來らざることあり、或は著しく其の數を減じ營巢せざることとなしとせず、右は一部の林木を伐採したる時に起る現象なれども數町乃至數十町歩の美林を伐採する時に於ては實に鳥類にとりては由々しき大事にして彼等の住家は爲めに破壊せらるるものなり、殊に神社佛閣の森林は鳥類に對して比較的安全なる棲息地域なるに拘はらず、近時神社會併に加ふるに官林拂卜等類々行はるるを以て伐採せらるること甚大なる所あり、元來森林は鳥類の生活に必要な食餌を供給し或は築巢の材料を提供し一方に於ては彼等の身體を安全ならしむる關係を有するものなるが故に、人里に遠からざる森林には最も多く棲息するが如き傾向あり、されど其の伐採に當りては先づ人里に近き森林より始め漸次深山に及ぶべし、されば鳥類の姿を隱すにも先づ吾人の耳目を離れ次第に人里を去りて深山に趣くが如き順路をとるもの如し。尙耕地整理の結果沼澤も年々埋立干拓せられ水禽類の游泳亦見ること稀となれり、更に他方より考察するときは諸工業、水産業、交通運輸業の發達並に軍事進歩、耕作の改良等亦鳥類棲息地帯を破壊若しくは縮少せしむる一因となるものなり、水産業の改良發達は漁港の設備、水上運輸業の發達は商港の築造を要するものにして、是ら築港の着手の結果は水禽棲息の區域を著しく縮少し且つ彼等に不安の念を附與せしむるものにして、或は全く水禽の巢窟たる小嶋を破壊して之が目的を達することもあり、されば一旦修築したる後と雖も般船往來激しきが故に附近に游泳する鳥類は次第に遠所に出で、又附近に蕃殖するカ

モメ類の如きも次第に遠所に其の場を轉ずるに至ること多し。製氷業の發達は寒地に於し水禽類無二の游泳場たりし清湖をして之に結氷せしむるがため又其の棲域を狭少ならしむるものにして勢ひ他の方面に新たなる游泳場を求むるに至るべし。鐵道運輸の發達は大に鳥類の生活に不安を與ふるものにして年來渡鳥の見ゆる地帯附近若しくは其の地帯に鐵道布設せむか忽ち他に移り行き決して其地帯には影を止めざるに至るべし。諸工業の發達は工場を増設を要するものにして年來渡來地と頼のみし地帯も今年は工場敷地に掠奪せられ、餘儀なく他所に推移するに至るべく殊に海濱のシギ、チドリ類の渡來地帯に製材會社設置して海岸一帯に材木を貯蓄する場合は如きは彼等棲域に著しき影響を及ぼすものなり。軍事進歩の結果海軍に於ては水禽類の棲息地帯を砲聲其他の原因にて破壊若しくは縮少せしめ、陸軍に於ては隨時執行する諸種の演習あるが故に夏季蕃殖期に入りし鳥類の如きは實に懸命にて自己の巢又は仔を捨て、逃去るものなり、又此の際無責任なる兵卒の如きは卵若しくは雛ある巢を發見するや直ちに何氣なく之を取り掲げ直接又は間接に彼等の生命を傷け敢て顧みざることあり。農林業の改良發達は諸種の方法を計畫して其成果をあげむとするが故に此の影響を受け棲息竝に蕃殖に障礙を亨くることありて勢ひ棲域に縮少を來さしむることあり、其の最も顯著なるは原野の火入れにしてキジ、ヤマドリ、ウヅラ其他多くの原野性禽類の如きは多大なる迫害を亨くるもの、如し、原野の火入れ期は概ね春季乾燥せる時期にして而もキジ、ウヅラ其の他の多くの鳥類の産卵期に遭遇するを以て焼え來れる火煙に焦死するの餘儀なきもの愈々多きに達するは實に悲慘無慮と云ふべし、其の他田園に巢くふ鳥類は除草、中耕等の手人を行ふ際に又果樹に巢くふ鳥類は諸種の手入れする際に夫々巢を發見せられて蕃殖を防碍せらるること往々あり。又野鳥の駆除に使用して以上の外人家竝に其の附近に築巢するツバメ、スズメ、ドバト、カラス、ムクドリ、セキレイ等の如きものにおいては一時的諸所に起る大火災のため直接又は間接に棲息地帯は破壊せられ、山野の鳥は山火事のため如上の危害を受くるものなるが故に一方候鳥も渡來に異狀を來しが如き結果に至るものなり。蓋し鳥類は火光に驚き易きものなるが故にして殊

實に渡來地帯に於ては

實に渡來地帯に於ては、鳥類の駆除に使用して

以上は、鳥類の駆除に使用して

に夜間海岸部落に火災ある時若しくは軍艦碇泊し探海燈を照しときの如きは、カモ類及び一般水禽は不意の驚愕を起して遠く逃げ去り數日間觀察し得ざるは勿論、青森市附近にて目撃し得る一例は海岸近き善知鳥神社に群居するムクドリの一團にして、蕃殖を了へたる該鳥の新仔一族の群團は無慮一千羽ボブラの森に夜間憩ひ居ること六月下旬より十月下旬に亘るべく、此の間軍艦碇泊する時は必ず探海燈を市中に向けて照すが故に憩ひつゝあるムクドリは急に騒ぎ立ち青葉の中より突飛し附近の電線などに衝突して死ぬもの極めて多きことあり、如斯世の物質的分明は彼等の棲息地帯をして不知不識の間に破壊するものなり。

(二) 狩獵者増加せること

狩獵者は維新以前に比して著しく増加したる結果自ら各人間に獲得上の競争心起り各秘術を以て多獲主義を主張するが故に不知不識の間に濫獲の弊害惹起し一方に於ては法定獵鳥以外の禁鳥に迄其の影響を及ぼすに至れり、維新以前にては鳥類を職業的に捕獲せる者は餌差と稱するものゝみにて此の者以外には公然鳥類を捕獲することたるや下民に於て禁ぜられ殊にツル、ガン、カモの類に於て然りとせり而も多くは銃器を使用せざりしたため其の捕獲數も亦今日の比にあらざるべし、勿論或者は銃獵を試みたりと雖も今日の如き霰彈を用ひざりしことゝ人生に密接なる關係ある小禽鳥を射殺せざりしが爲敢て著しき影響を認めざりしが如し、之に反し現今狩獵界に於ては銃器の製造極めて進歩し連發銃、杖銃等の如き精巧なるもの發明せられ、内外國の製品夫々廉價に種々なる方法によりて販賣せられ何人と雖も狩獵免許を受くるときは隨意に銃獵を行ひ得べく、且つ善良なる火藥及び霰彈を使用するのみならず精巧なる呼笛其の他の副獵具等發明せられたるを以て狩獵技術の巧拙を論ずること敢て無きが如き狀況とはなれり、されば職業以外にも貴公子等は日曜の好晴に乗じて近郊に出獵し或は汽車、自動車等便を得て數十里の遠征的狩獵をもなすに至れり、如斯娛樂的銃獵を試みる人士にありては鳥の人生に對する利害關係の區別に論なく嚴重なる法定禁止鳥と雖見當り次第濫射して顧みざる

者もなしとせず、又甚しきに至りては其の日の不獵なるを嘆き家禽鳥を射撃し或は危険多き場所に於て發砲する等の暴行を演ずることも往々見聞する所なり、俗に阿呆の鳥追ひと云ふは鳥の賢にして人の愚なるを知るとの意味にして即ち愚なる人間銃器を携へ彼等を追廻する其の間に賢なる鳥類早くも銃丸の達せざる御獵場或は禁獵区域内に入り、又は國境を超へて爆聲少き安全地帯に逃げ去り其の影を隠すに至るものなり、斯かる行爲年々回歸的に起るときは鳥類の棲息地域次第に破壊せられて其の數に不足を告ぐるに至るべし、以上は銃器を使用する狩獵即ち現行狩獵法律の二種狩獵なれども此の外に甲種狩獵と稱し銃器以外の網類、竊繩モチヂウ、箒ハシ、鉤フック、鼠ネズミ等の獵具を使用して鳥類を捕獲する方法あり、此の狩獵は前者に比すれば免許を受くる者少數なれども有益なる小禽類を一時に多獲し得るが故に鳥類の減少を來さしむる原因としては決して忽諸に附すべからざるものなり、今參考の爲め大正十年度（自十年十月十五日至十一年四月十五日）に於ける鳥類捕獲の數を農商務省にて統計せるを以て其の一部を表示せむとす。

大正十年度に於ける狩獵免許者員數は全國にて二十一萬七千〇三十五人にして其の捕獲數鳥推定員數は一千七百二十九万七千六百羽以上に達せり、而して全國各府縣よりの捕獲數統計材料完集せざるを以て京都府外十一縣に於ける鳥類捕獲數を示せば次の如し。

府縣	京都	埼玉	茨城	三重	長野	宮城	山形	石川	富山	岡山	山口	大分
合計	四〇三、九四 <small>羽</small>	一五八、五三二	二〇五、〇六三	七五、八五三	七五、三五四	一三三、六四四	四七一、四七四	七四六、七六	四四〇、六四九	四六一、七九八	二八三、七〇八	二六七、九一

（但し右十二府縣狩獵家數五万七千百一十一人一人宛捕獲數七十九羽平均となる）
次に上記各捕獲鳥類別推算表を示すべし。

種類	合	計	標準	體重	標準	價額	合	計	重	量	合	計	價	額
ア イ サ	六、〇八七	三、五〇六	八〇	二、一三〇、四五〇	四、八六九、六〇	二、六六一、三二	四、八六九、六〇	二、六六一、三二	九九二、八〇	二、六六一、三二	四、八六九、六〇	二、六六一、三二	九九二、八〇	二、六六一、三二
ア ト リ	一三三、〇六六	六	八〇	七九八、三九六	一、八六一、五〇〇									
ア ホ ウ ド リ	一、二四一	一、五〇〇	八〇	一、八六一、五〇〇										
ア ナ サ ギ	一〇、七五〇	三、五〇〇	一〇〇	三、七六二、五〇〇										
ア ナ ジ	一五二、三〇七	六	六	九一三、八四二	三、七六二、五〇〇									
イ カ ル	一七、三五〇	二〇	六	三四七、〇〇〇	一〇一、五二〇									
イ ス カ	一〇、一五二	一〇	一〇	一〇一、五二〇										
ウ ソ	二、七二六	五〇〇	六	一、三六三、〇〇〇										
ウ ズ ラ	一、一三九	六	三	六六、八三四	二、〇〇七、一五〇									
カ ケ ス	六六、九〇五	三〇	三五	二、〇〇七、一五〇	六三一、六八〇									
カ シ ラ ダ カ	二一、〇五六	三〇	一五	六三一、六八〇	二、八五五、六二二									
カ ワ ラ ヒ ワ	四七五、九三七	六	二	二、八五五、六二二	二、七七八、九五二									
カ ラ ス	四六、四九二	一八〇	一、五〇	二、七七八、九五二										
ガ ン	一五四、〇七一	二五〇	二〇	二、七七八、九五二	四、〇五三、〇〇〇									
キ ジ	一、四八八	一、〇〇〇	二、五〇	四、〇五三、〇〇〇	一、四八八、〇〇〇									
ク ヒ ナ	一七六、九三八	二五〇	一、二〇	一、四八八、〇〇〇	四四、二三四、五〇〇									
ク マ ダ カ	一五、八九二	三〇	一、〇	四四、二三四、五〇〇	四七六、七六〇									
ク ロ ジ	一四一	八〇〇	一、五〇	四七六、七六〇	一一二、八〇〇									
ケ リ	二、五二五	一五	二〇	一一二、八〇〇	三七、八七五									
五位	一、三八八	五〇	二〇	三七、八七五	六九、四〇〇									
シ ギ	一四、一五一	一五〇	三〇	六九、四〇〇	二、一二二、六五〇	一四、一五一	二、一二二、六五〇	一四、一五一	二、一二二、六五〇	一四、一五一	二、一二二、六五〇	一四、一五一	二、一二二、六五〇	
合	一四四、一五八	三〇	三五	二、一二二、六五〇	四、三二四、七四〇	一四四、一五八	四、三二四、七四〇	一四四、一五八	四、三二四、七四〇	一四四、一五八	四、三二四、七四〇	一四四、一五八	四、三二四、七四〇	

シロハラ	一〇、一七一	二〇	四	二〇三、四二〇	四〇六、八四
スズメ	七九、四〇六	二五	一五	一、九八五、一五〇	一一、九一〇、九〇
ダイゼン	八二、三二〇	六	三	四、八七三、九二〇	二四、三六九、六〇
チドリ	二六一	六〇	二〇	一五、六六〇	五二、二〇
ツグミ	三、六七〇	一六	二〇	五八、七二〇	七三四、〇〇
入内雀	九六五、七六八	二〇	二〇	一九、三一五、三六〇	一九、三一五、三六
ノジコ	二二、三六四	六	三	一三四、一八四	六七〇、九二
ハクテウ	一八、五六二	六	二	一一一、三七二	三七一、二四
ハヤブサ	二八〇、三四八	六〇	二五	二六四、〇〇〇	六六〇、〇〇
ハヨドリ	七八二	八〇	二五	一六、八二〇、八八〇	七〇、〇八七、〇〇
ヒヨドリ	二八、一〇三	六〇	二五	六二、五六〇	一九五、五〇
ヒヨドリ	二七七、七八〇	二〇	一五	一、六八六、一八〇	七、〇二五、七五
ホ、ジロ	一一〇、二二四	六	三	五、五五五、六〇〇	四一、六六七、〇〇
マシコ	一四六、一七八	六	三	六六一、三四四	三、三〇六、七二
ミサゴ	四、一三二	六	三	八七七、〇六八	四、三八五、三四
ミヤマホシ	一五四、八九五	三〇	二	二四、七九二	一一三、九六
ミヤマホシ	二五九	三八〇	〇	四、六四六、八五〇	三、〇九七、九〇
ムナグロ	七、三八七	五	三	九八、四二〇	二五九、〇〇
ヤマドリ	一五、〇〇四	三六	二〇	三六、九三五	二二一、六一
ワシ	一一四、七四八	二五〇	一、二〇	五四〇、一四四	三、〇〇〇、八〇
エゾヤマドリ	四九	一、〇〇〇	三、〇〇	三一、一八七、〇〇〇	一四九、六九七、六〇
ラシドリ	七、九六八	一五〇	五〇	四九、〇〇〇	一四七、〇〇
				一、一九五、二〇〇	三、九八四、〇〇



わたりばとノ圖

計

四、五五二、六八三

一九二、一七四、七二〇

一、一一三、二四六、七〇

尙青森縣に於ける大正十一年度（自大正十一年十月十五日至十二年四月十五日）の狩獵免許者員數總計一千五十一人に
 して捕獲鳥獸員數實に五萬二千七百五十五點なり、而して其の内譯を見るにスズメ一萬七千六百二十七羽、キジ九千三
 十三羽、カモ八千三百四十八羽、ハクテウ六十三羽、ヤマドリ三千二百九十九羽、ガン七十四羽、シギ一千二百一十一羽
 、ハト五十羽、オシドリ百二十一羽、ウヅラ三百六羽、ハヤブサ八羽、ヒヨドリ五十六羽、カケス五十六羽アヲジ五百
 二十三羽、カラス三十二羽、クマダカ四羽等其の主要なるものなり。

以上は何れも單に統計上の員數なれども其の實際に於ては一乃至三割位の捕獲數は潜在し居るが故に狩獵家の犠牲となる鳥類の數たるや實に莫大なるものなり。

尙茲に一言し置き度きは狩獵に伴ふ密獵者の諸所に散見する其の事にして勿論甲乙兩種の狩獵法律に違反するものなれども、殊に甲種狩獵術は實行上危險を伴ふこと少く且操作も容易なるが故に蒐集心理の發達中なる學校兒童生徒の如きものに至る迄、休業日を利用して之に着手しヒツ、ウツ其の他小型の候鳥類出現する時季の如きは實に多數の小禽を捕獲する者あり、成人に於ける同種の反行は又實に偉大なるものにして一朝二百若しくは夫れ以上の捕獲をなすこともあるが故に、公定狩獵と共に鳥類の減少を來さしむる一因をなすことたるや明瞭なるものなり。

(三) 獵區擴張せること

交通機關の發達は實に狩獵區域の増加に影響を及ぼすものにして以前に於ては一日の狩獵里程を案ずるに僅々數里の郊外に止まりしも、交通機關の發達せる今日にありては朝に十數里の山野に鳥を追ひ夕に帝都の驛に其の獲物を誇るを得べし、されば本年多數の鳥類繁殖したりと雖も憎むべき彼の通信者は直ちに一書を飛ばして出獵の案内をなす、或は獵師自動的に諸所の獵場を探檢し獵期の明くるを待ちて天恵に浴せむと計畫する者もあり、如斯各人獨特の秘術を試むが故に次第々々に獵場は遠所に擴まり隨て深山幽谿にあらざる限りは鳥類の自由郷にあらざるべく、而も鳥類には各習性ありて原野に棲むものは深山の生活に海棲のものは湖沼の生活に適せざるを以て、如斯彼等の自由郷を掠奪するときは止むなく遠所に避難的動作をとり自己竝に種族の保存を企するに至るべし、是又鳥類の年々に減少し行く原因の一項なりと信ず。

(四) 數物師の不良手段

鳥類の減少は直接濫獲に基因するの外尙他に棄却されたる一大原因あるを知れり、該事たるや今日に於ては殆んど衰頹

せる傾向あれども嘗て横濱に於ける二三の數物師が日本産鳥類の剝製品を續々海外に輸出せりと云ふ、此の結果一時に一萬以上の鳥類を取揃へむため諸種の鳥類を濫獲し彼等の暴利を得むとせり、此の事たるや元オーストン氏の發企に係はり海外の注文夥しかりしたため狩獵法律存在するに拘はらず、キジのみにても一萬羽以上を取揃へたることありと云ふ、其の行爲は實に憎むべく尙近きは十數年前に起りし問題にして、飾羽用として海外に需要多きミヅナギドリ（水風鳥本縣にも多し）の濫殺せられたる事件なり、北海道福山沖の小嶋及び高知縣蒲葵嶋等は該鳥無二の蕃殖地帯なるを以て此の區域より濫獲し、前者より數萬羽後者より數千羽の罪なき羽族を短時日の間に斃滅して其の羽毛を海外に輸出せりと云ふ、是實に鳥類に對して怒し難き點にして當局者の心底を惱したる所なり、されど最近に至りては其の行爲の非なるを悟り斯かる行爲なきに至りたるは誠に喜ぶべき現象なり。

(五) 剝製業者と博物標本屋の不正手段

不徳にして貪慾なる剝製業者は密獵を獎勵し補獲禁止鳥たると否とを問はず剝製して其の賃金を得生活するものなるが故に、之を聞き野心ある人士は鳥を祝るや前後を顧みず捕獲行爲を起して之を捕り剝製業者に送りて剝製を依頼するが故に之がため捕獲せらるる者も尠からずとす、又博物標本屋は各地に秘密的に各種鳥類の捕獲を依頼し以て標本として各所に販賣するが故に之がためにも犠牲となるもの決して尠しとせず、而して標本屋なるものは入手せる鳥類中新鮮なるもの、肉は料理屋と連絡をとり之に送りて相當なる代價を得、其の後の剝製品は頗る高價に賣り拂ふものなるが故に其行爲は併せて憎むべき價値あり、其の他不徳なる博物家にして相當に鳥の卵、雛等も捕りて鳥界の破壊を促すものもなしとせず、或は不徳なる飼鳥屋も極めて鳥類の減少を促さしむる而も憂慮すべき行爲を演ずることも屢々認むる所なり、予の時々見受くる所は彼が一兒童に命じてヒバリの雛を捕り來るときは一羽二十錢クログミの親鳥にてよく鳴くものなれば一羽八十錢又其の雛なれば一羽五十錢ウグヒスの雛は一巢一圓にて購ふべしと言ふが故に、兒童は之に誘惑

せられ直ちに其の捕獲に従事し又青年なゆとも上記の甘言を聞き自己の餘閑を見計らひて捕獲するが故に、一ヶ月間に幾十番のなきキジバト又はヒバリ等は捕獲せられ鳥學の研究に迄影響を及ぼすに至ることありて皆鳥類減少の一因と謂ふべし。

以上は鳥類減少の理由に關する予の私見に過ぎざるも尙茲に一言し度きは歐洲文明國に起れる最近の例にして、彼の洪牙利國は從來鳥類保護に熱注し而も大なる其の成績を示し居たるに拘らず、歐洲大戰に際し肉類に欠乏を告げたる結果が補充の意味にて諸種の鳥類を濫獲し、其の反動として大なる害蟲の發生を醸したる珍事を見たり、我國に於ても今回突發せる東京地方大震災の結果間接にも之に類似せる例證を見ざれば幸なり、又各國に存する迷信に結果せる民間治療は或鳥は某病氣に特効あるものなりと流布するが故に各地に於て隨時に諸種の有益鳥類を捕殺することも尠からざるべし。

尙自然界に於ては自然力の制裁を受けて死滅するものも多しと雖も之を人類に基因する制裁によりて死滅する數量に比しては遙か小なるものなり。

要之人文の進化は直接又は間接に野生鳥類の棲息地帯を破壊若しくは縮少するものなれば現在の儘に之を放任する時は地球上の鳥類は遠からずして全滅の悲に陥ることなきを保し難し、而して鳥類減少の結果は必ずや吾人に對して直接又は間接に大なる影響を及ぼすものなれば之が保護増殖を謀るは實に目下の急務なること再言して止まざる所なり。(完)